

## 水稻種子のNaCl濃度別における品種別間の発芽率と発芽勢 — 震災復興関連技術 —

古川農業試験場

### 1 取り上げた理由

津波により塩害を受けた地区において、除塩作業後に水稻を始めとする営農活動に復帰する際、移植栽培の他に経営拡大や施設等様々な要因から水稻直播栽培にて作付けが要望されている。

今回、NaCl濃度別の品種間差についての発芽率、発芽勢への影響が明らかとなったので普及情報とする。

### 2 普及情報

- 1) 発芽率は、NaCl濃度0.3%以下まで95%以上確保できるが、0.6%以上では品種により発芽率が異なる（図1, 図3）
- 2) 発芽勢は、NaCl濃度が高くなるほど遅くなる（図2, 図3）。
- 3) NaCl濃度に影響の少ない品種は、「ひとめぼれ」「ササニシキ」「まなむすめ」「げんきまる」の4種類であった（図2, 図3）。

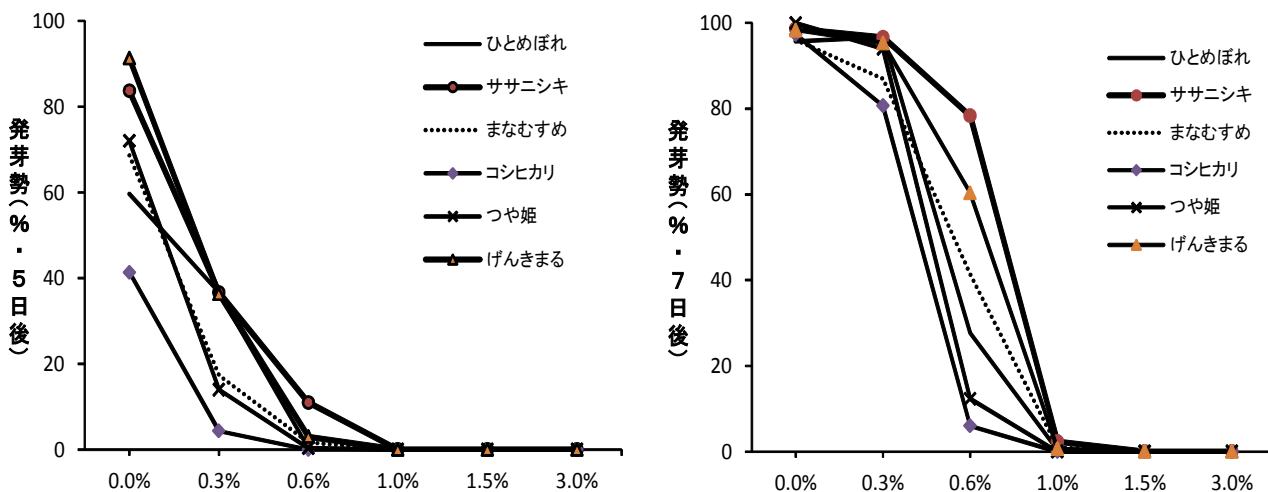


図2 NaCl濃度別の発芽勢（左：5日後の発芽率, 右：7日後の発芽率）

### 3 利活用の留意点

- 1) 本発芽試験は、平成24年産の一般用種籾（常温暗所保管）を用いて、4月上旬～下旬にシャーレ内100粒ずつ置床後、各濃度のNaClを加え、30°C明条件下で15日間インキュベートしたものである。
- 2) NaClは、食塩を蒸留水にて所定濃度に希釈し使用した。

（問い合わせ先：古川農業試験場水田利用部 電話0229-26-5106）

#### 4 背景となった主要な試験研究

##### 1) 研究課題名及び研究期間

・津波被災水田の実態調査と除塩・栽培管理技術の確立 平成24年

##### 2) 参考データ

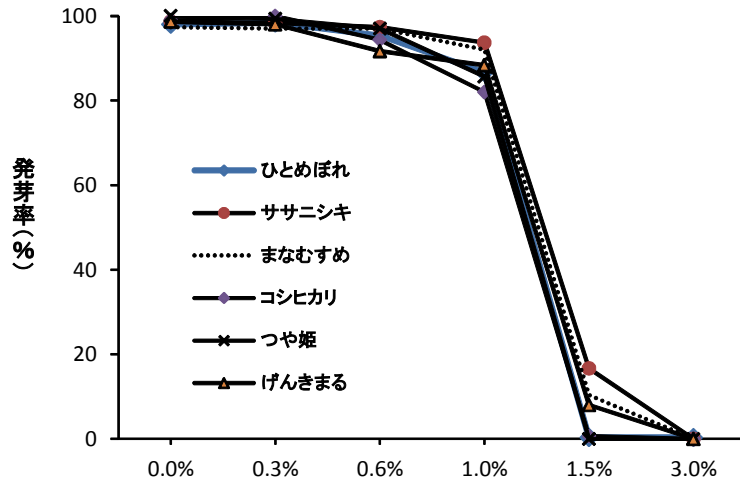


図1 NaCl濃度別の発芽率

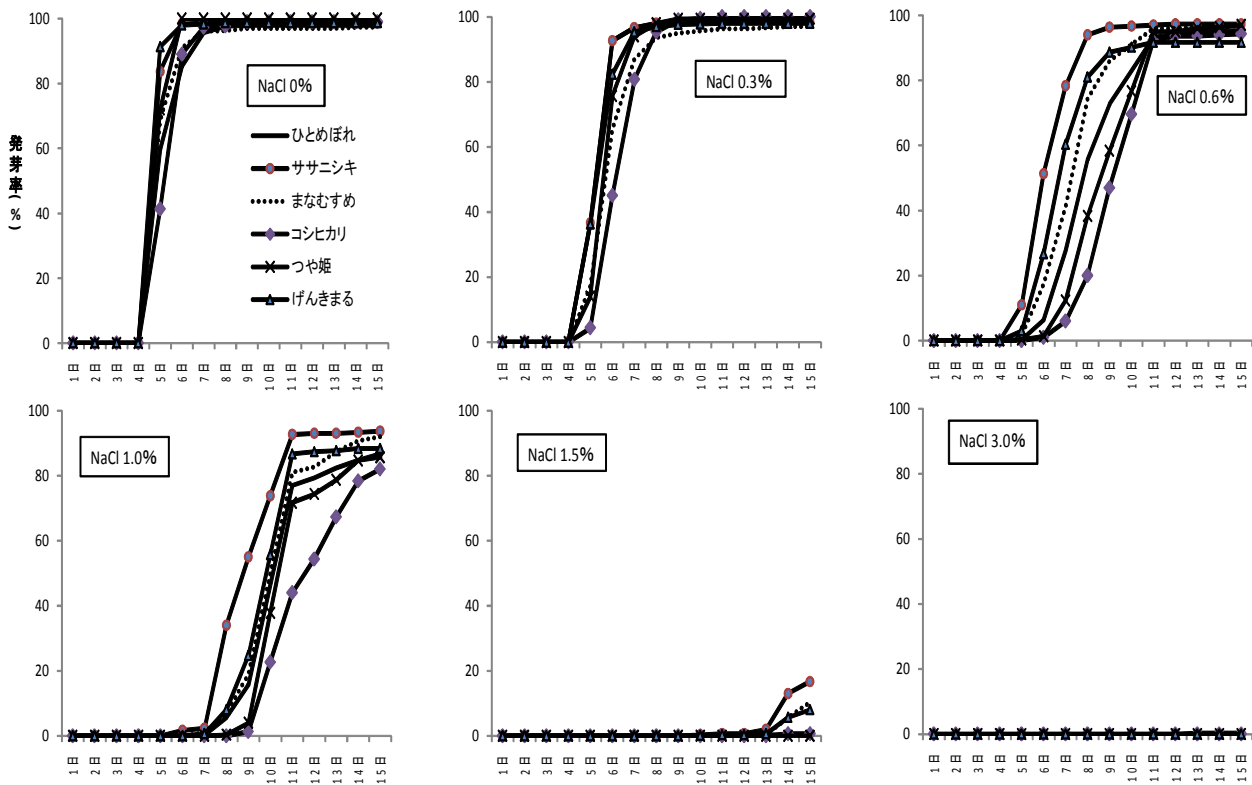


図3 NaCl濃度別の発芽率（品種別）

##### 3) 発表論文等，関連する普及に移す技術等

なし